

「あふれる愛」

聖句「わたしは、あなたに約束したことを
果たすまで決して見捨てない。」

—これからもともに—

—創世記28章15節後半—

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川県
2015年2月4日
第127号



テーマ〈行ってお帰り〉

横浜本牧教会・附属早苗幼稚園

牧師・園長 森田 裕明

今年度も残り少なくなり、年長児の卒園の時も近づいて来ました。この時期、年長児の成長を喜び、感慨を深くしている先生方も多いと思います。私は毎年、卒園式が終わる年長児を送り出す時に、「いつでも幼稚園に帰って来ていいんだよ」と言葉掛けています。この言葉には、期待と不安を胸に抱きながら、小学校へ入学する年長児が、幼稚園とは随分雰囲気が違う環境の中で、疲れたり、悲しくなった時に、慣れ親しんだ幼稚園に帰って来て、元気を取り戻してほしいという思いがあります。実際、三十年以上の教師生活の

聖句

「自分たちを派遣した人々のところへ帰って行った。」

(使徒言行録15章33節)

中で、幼稚園に帰って来て、小学校生活を元気に過ごせるようになった子ども達が何人もいました。卒園生が、幼稚園に帰って来た時には、その子が、神様であるイエス様にいっぱい愛されていて、これからは、必ずと愛されること。イエス様がその子の良さを知っていることを話してあげています。そして、「イエスが愛している〇〇くん(ちゃん)」を、園長先生も大好きだし、毎日会えないけれども、〇〇くん(ちゃん)の〇〇のために祈るね」と約束してあげています。

私が今迄勤務して来た五つの幼稚園は、すべて教会附属か教会関係でしたので、卒園生の中には、日曜日の教会学校に出席する子もいました。キリスト教の幼稚園や保育園の母体である教会は、人の人生と関わりとところでもあります。牧師でもある私は、今の教会や前の教会でも、卒園生の結婚式を挙げたことがあります。その卒園生達は、私が園長として送り出してはいませんが、結婚式の依頼の理由を、「卒園した幼稚園が、教会の幼稚園だったことを思い出して」と話してくれました。結婚準備会の折に、幼稚園時代のことを聞く、ある卒園生が、「自分は、神様と担任の先生に愛され、大切にされてきました」と話してくれました。卒園した幼稚園が、人の誕生から死まで関わる教会とつながっていることを、卒園生が人生の歩みの中で、気づかされ、思い出し、帰って来てくれたのだと、とても嬉しい気持ちにさせられました。聖書の中で、「送り出す(派遣)」と訳されている言葉には、「帰る」という意味もあります。先生達に、祈りと励ましをもつて、送り出された子ども達が、いつでも「ただいま」と言って、帰って来られる場所が、教会や教会の幼稚園、保育園なのです。

しかし実際には、卒園生の大半は、同窓会等特別な時以外、帰って来ることはありません。子ども達と直接関わりを持てるのは、在園期間だけです。その子の人生からすれば、ほんの僅かな期間ときです。しかし、先生に愛され、祈られたというその期間が、その子の人生に大きな力、希望となるのです。会えないからこそ、心に残る先生の姿や言葉が、その子を生かす力となることもあるのです。教師がその子のことを思い出して、心を寄せ祈る時に、その子は、イエス様と教師のもとへ、帰って来ているのです。



お互いを

大切に

ひの木幼稚園

主任 梨谷 今日子

「幼な子をキリストへ」を目標に横浜市鶴見区馬場の地で幼児園が始められ、五十四年が経とうとしています。東急線菊名駅より徒歩園内の住宅地にある、私達のひの木幼稚園。現在は三・四・五才児一クラスずつ。園児四十四名、職員六名、総勢五十名の「ちよつと大きな家族」のような幼稚園です。

本人にとつてはその日一日を左右する程の大きな事なのです。ですから私達はいつも一生懸命、保護者の方のお話を聞きます。そうしていくうちに信頼関係が出来てきますね。

その関係が出来て初めて、お母様方は今まで心の奥にしまっていた様々な「本当の心配」を「先生、実は…」と言葉にしてそつと話して下さるような気がします。すぐ答えが出る様な問題では無いですから一緒に考えましょう、と言つて考えます。私達職員が保護者の方の困っている事を知り、一緒に考える、それが私達が一番大切に思っている「支援」です。

理由は問いません、という形で申し込み制での延長保育を数年前から始めました。緊急時は当日電話での申し込みもOKです。一日平均四人程、三・四時間の「おあずかり」です。先生のお手伝いをしたり一緒におやつを食べたり。少ない人数ですが保育中とはまた違ったホッとした表情を見せてくれ、私達も和みま

す。大人も子どもも、みんな寄り添いながら支えあつてこれからも過ごせて行けたら…と願う日々です。

保護者と共に

菊名愛児園

主任保育士 曾我部 ひとみ

園には、保護者からの声日々寄せられてきます。子育てに悩みはつきものですが、その内容に、最近変化が見られ、保護者の悩みが保育士の悩みや心配と合致しない事が増えてきました。「年下の子に譲れるようになってきた」と感じる保育士に対し、「我慢をさせている」と感じる保護者。集団の中の姿を捉える保育士と「我が子だけ」に集中する保護者。五年後、十年後の姿を想像しながら育ちを援助する保育士と「今日、今を笑顔で楽しく過ごしてほしい」と願う保護者。どちらも子どもを思う気持ちが根底にあるにも関わらず、園での保育を理解して頂く事は難しいと感じる事が有ります。このような状況の中、真の保護者支援とは何でしょうか？

私はまず、「日々の保育を大切にを行う事」そして私たちが最も大切にしている「キリスト教保育を実践する事」であると考えています。神様がひとりひとりを愛して下さるように、私たちがひとりひとりの子ども

を「神さまからお預かりした、世界でたったひとりの子ども」として保育を行う事。そして、子どもが安心して過ごしている事を保護者に実感して頂く事が、保護者の安心につながり、ひいては真の支援になるのではないかと考えています。

最近、時間のある時は、保育の様子を写真に撮り、その日のうちにコメントを添えて掲示しています。子どもたちの姿を、保育をこまめにお伝えし、信頼関係を築く事で、保護者が安心して子育て、仕事を楽しめるよう、支えていきたいと思えます。

保護者支援

片瀬のぞみ幼稚園

横山 流

今年もあと一ヶ月で終わりを迎えるようとしています。子どもたちと共に、一つ一つの事象に心と体を動かしているると本当に一年が短く感じます。そして、ホツとしていた間もなく、次年度に向けて様々な予定を立て、準備を整えるのは自園だけでは難しいでしょう。その中で「保護者支援」にどう取り組んでいくかは、これからの幼稚園のあり方を考えてい

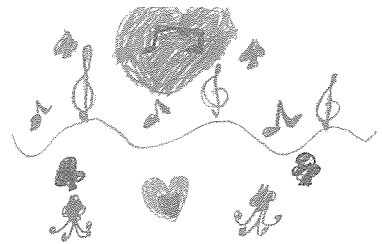
く上で重要な事項の一つです。

片瀬のぞみ幼稚園では、預かり保育(通称うみっこ)、子育てサロン(通称いくら・しらす)を「保護者支援」の一環として開設しています。

一つ目の預かり保育は、今年度で4年目を迎えました。その間、保護者のニーズやその必要を考慮しながら少しずつ時間や日数を増やしていき、現在に至っています。最近では、仕事や用事での預かりだけでなく、友だちとの関わりが増え、遊ぶ約束を子どもたち同士でどんどん進めていく年中・長児の遊び場の提供としての役割を果たすケースも増えています。二つ目の子育てサロンは、二歳児未満の赤ちゃんとその保護者に向けたクラスで「閉鎖的になりやすいお母さんの憩いの場」となるように開いています。編み物体験やおやつ作りをしながら育児仲間と出会い、交わりの機会となっています。

今現在、少子化・政治的目論みなど様々な問題が混じり合った中で「保護者支援」は進んでいます。どのような形が子どもたちの成長に結びつくのか。「保護者サーブिस」ではなく、「保護者支援」として、また、「お客様」ではなく「子どものありのままの姿を共に受け止めていく同

士」として進める支援でありたいと思います。



ご家庭と心を紡いで

七里が浜楓幼稚園

園長 高橋

栄

「おはようございます」と元気に登園する子どもと挨拶を交わす朝、子どもの心のありかたが、表情や目の輝きから感じられます。子どもたちは環境に影響され易く、母との関係性や、自分の位置を感じ、自ら生きぬき方を選びながら生きています。心を込めて関わってもらえる大人との関係は、子どもの発達と幸せ度を向上させていきます。

保育は、「子ども教育と保護者支援から」との思いから、ご家庭との心の連携を大切にしています。

お母様支援の一つは、コミュニケーションの構築です。気楽に園に足を向け、子どもの姿を覗いていただき、お話や相談のできるスペース作りや雰囲気作りを心掛けています。

また、お母様講師によるワークショップ開催。専門分野の先生による子育てセミナーの開催は、お話を聞き、思いを交換できる時間となり、リフレッシュの時にもなります。

其二、当番制ですが、絵本の貸し出しや園外保育の引率、行事のお手伝いをしていただき、集団の中での子どもの姿を覗いていただき「家と違って、皆さんしつかりしていますね」と驚かれ、子どもの姿の新発見の嬉しさや、楽しく子育てしていただく環境を工夫しています。

其三、お父様幹事の企画イベントが学期に一度開催されます。父親同士の連携や家族同士の連携が子育て環境を安全に広げ、子どもたちに大人とのコミュニケーションの力を培っていただいています。幹事は毎年立候補制で大人気です。力仕事、防犯、父子、家族間の連携、地域へのボランティアなどは、子どもたちのみならず、お母様の活動や地域全体の活性化を実現しています。

私たち保育者は、元気で前向きな

ご家庭の理解とご支援に支えられ、楽しく保育をさせていただけることに感謝して過ごしています。

講演会に参加して

御濠端幼稚園

主任 鈴木 優子

キツネの手遊びから始まった講演会は、前半は「OECDによる各国ECECの質の課題に関する報告書」の中で、ニュージーランドとスウェーデン、そして日本の乳幼児期の教育とケアについて、比較して捉えることで、それぞれの国の乳幼児期の教育の特長を学ぶことができた。私自身これまで、スウェーデンについては、福祉が充実していることは理解していたものの、乳幼児教育についての考え方も、漠然としか捉えていなかった。さらに、ニュージーランドの幼児教育の特長が、私達が理想としている保育者の姿と重なることも、よく理解することができた。少し難しい内容ではあったが、

その視点から、後半の「ままごとからお店ごっこへ」という事例を読み合わせると、前半で学んだ特長を具体的に考え、知ることができた。

「お店ごっこ」では、頭の中で、普段我が園での「お店やさんごっこ」の状況を思い浮かべながら読んでいった。子ども達が、遊び(環境)の中で、友達・保育者・物と関わりながら、遊びが広がり、そして深まっていくなかで、保育者のサポートについて、スウェーデンの視点から考えていくことができた。

特に大切だと思ったことは「オーブンエイドな問いかけ」だった。日本では、教育においても、一つの問いに対し一つの答えということに重きを置くが、そうではなく、答えはいくつもある。そのような観点から子どもを見守り、サポートしていく私たちの保育者の質の高さが大切であると、改めて感じることができた。

〈役員会報告〉

書記 奈良 昌人

役員会は九月十一日(木)、十一月十三日(木)、十二月三日(水)クリスマス礼拝後に開催されました。主なことを報告いたします。

◆夏期講習会を終えて：八月二十日(水) 関東学院大学にて三十四園、会友一人、一養成校、二〇四人が参加し開催されました。開会礼拝では鶴沼めぐみルーテル教会の山口卓也牧師よりメッセージをいただき、続く講演では、LIFE DEVELOPMENT CENTER 渡辺醫院副院長 渡辺久子先生より「遊びと甘えの育む心の土台：乳幼児精神保健の知見から」のテーマでお話いただきました。講演後に勤続十周年以上の六人の先生方への永年勤続表彰が行われました。昼食後はワールドカフェによる四十グループに分かれての話し合いが行なわれ、自由な雰囲気でも多くの人と交わることができ、とても好評でした。

◆第二回講演会は十一月五日(水)カンバランド長老キリスト教会高座教会(高座みどり幼稚園)において和泉短期大学児童福祉学科准教授の相靖明先生をお招きし、「環境を通し

て子どもたちの育ちをみる」その工夫」のテーマでお話を伺い、質の高い幼児教育のために、具体的な子どもたちへの声掛けの仕方など、自分の保育を振り返る良い機会となりました。一一〇人が参加しました。

◆クリスマス礼拝は十二月三日(水)清水ヶ丘教会にて、今年4月に日本キリスト教団清水ヶ丘教会に着任された中島 聡牧師よりクリスマスメッセージをいただき、その後、東洋英和女学院付属かえで幼稚園の皆さんのリードにより楽しいクリスマスソングの一刻を過ごし、恵みのうちにクリスマススの喜びを分かち合いました。各園からの献金二十七万三千八百円は横浜訓盲学院、国境なき医師団、連盟の被災地支援にお渡ししました。

◆園長・設置者・主任研修会

二〇一五年一月十二日(月)に、茅ヶ崎のめぐみの幼稚園を会場に、宮前幼稚園、第二宮前幼稚園園長、神奈川県私立幼稚園連合会研究部長 亀ヶ谷忠宏先生より「環境を通して学ぶ」についてお話を伺い、良き学びと交わりの一日を過ごしました。

◆保育環境研修会と全体主任会

二〇一五年一月二十八日(水)午

後三時～五時に認定子ども園捜真幼稚園にて行なわれました。

◆全体主任会

二〇一五年二月四日(水)午後三時より、横浜英和幼稚園にて行なわれます。

** 編集後記 **

2014年、子育て支援という言葉が様々な場面で聞かれましたが、園では昔からご家庭に対しての温かいまなざしがありました。今回、様々な実践の報告を部会便りの原稿としてお寄せくださった各園の先生方に感謝いたします。



発行日 二〇一五年二月四日

印刷所 樋口タイプ印刷

編集者 神奈川部会 広報担当

聖鳩幼稚園 林 光

のぞみ幼稚園 藤田 希恵子

イラスト提供 宮の台幼稚園